

## 332アーク溶接装置を起因物とする死傷災害100事例 (-2017年)

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	小業種	労働 者規 模
1	2017	9	16～ 17	2号ライン端部材溶接機にて、端部材溶接機の前側治具に取り付けた端部材を被災者が付け直そうと上昇途中の治具に手を出したところ、改良型レベラーと治具の間に右手を挟まれた。	30	7	11209	50～ 99
2	2017	9	16～ 17	上記の日時に、ステンレス製タンク（10,000?）の底にて、攪拌軸受けボス（丸棒）の交換作業のためボスを切断し、砥石作業を終えて、新しいボスをタンク底に溶接し、パーンクリーナーを使用して周囲の洗浄をした、10分程経過の後に臭気確認し溶接作業にとりかかった時にタンク底のノズルから火柱が上がり、両手ひざ、足、顔に火傷を負った。	32	11	11209	30～ 49
3	2017	9	16～ 17	事務所の置き場にて、溶接の作業をしていたところ、火花が飛び散り誤って左足にやけどを負い、その後火傷が化膿して腫れたので受診した。	29	11	11209	10～ 29
4	2017	8	14～ 15	スチール事業部第二工場にて、フットボタン式のスポット溶接機で、ナットを製品に溶着する加工作業中、製品を加工機にセットし、ナットを右手でセットしている最中に誤ってフットボタンを足で踏んでしまった。その際、右手を加工機から抜くのが間に合わず、機械に右手親指を挟んで負傷した。	28	7	11203	1～9
				当社工場内に於いて、アーク溶接の作業中、業務が逼迫していたがために使用していた溶接機を性能の限界を超えて連続				

5	2017	7	11~12	稼働（原則はON⇔OFFを随時切り替えながら稼働させること）させてしまい、溶接機付随の溶接棒の持ち手部分が通常以上に高温化。そこに誤って右手を当ててしまい、当該示指及び中指を火傷。当日は応急処置を施した上でそのまま勤務し帰宅したが、その後徐々に症状が悪化してきた。	46	11	11209	1~9
6	2017	6	11~12	抵抗溶接（スポット溶接）作業において、左手で部品を持ち、その部品の孔にボルトを右手で差し込み加工を行うが、セットしたボルトから手を離す前に起動（フットスイッチ）させてしまい、右手母指を挟んでしまった。	34	7	11502	100 ~ 299
7	2017	6	16~17	工場内で半自動溶接機で鉄筋加工品を溶接作業中に、右手でトーチを持ち、左手で鉄筋を押さえたまま溶接をしてしまい、溶接ワイヤーが被溶接箇所当たらないで、皮手袋と作業服の隙間に入り、左手首を負傷した。	34	11	11209	10~ 29
8	2017	5	11~12	受験を会社からの出張命令で出勤扱いにより、実技場で、作業服・手甲・保護マスク保護手袋・帽子・溶接面・ゼッケンを着用し、初層溶接を開始した。二層溶接を行った後、最終溶接テストピース後半に差し掛かり、段々と左腕に熱さを感じる。あと少しで溶接が終わるので続行したが、完了して面を上げるとゼッケンが激しく焼けて左腕と右胸が燃えていた。	37	11	11209	1~9
9	2017	3	15~16	通常作業の1つである大型金型を放電加工機に工具を使い取りつける際、金型の角の薄いエッジに左手首付近をぶつけ、6針を縫う裂傷を負った。	44	8	11709	50~ 99
10	2017	2	21~22	破損した設備の補修溶接作業を行っていた。「熱い」と感じたので、足元を確認したところ、溶接の火花が作業服（ズボン）に引火しており、急いでズボンを脱いだが火傷していた。	29	11	10402	100 ~ 299
				被災者が、第3ヤード東側溶接場で、コラム柱の上でガウジン				

11	2017	2	10~11	グ作業中、ガウジングの火花が飛散する中、火花が背中に飛んで燃え上がり、熱くなり気が付いて水をかぶり火を消したが、背中を火傷した。	39	11	11209	1~9
12	2017	2	14~15	スポット溶接機の調整中にバランスを崩し倒れそうになった際、倒れまいとしチップに左手をかけたところ誤って同時に足踏みスイッチを踏んでしまい左手親指が挟まれ受傷したものである。	55	7	11209	1~9
13	2017	2	11~12	建築作業を行った後、鉄骨加工場に戻り清掃作業を始めたところ、着衣に引火し、左腕、左足に火傷を負った。	62	11	80409	10~29
14	2017	1	11~12	工場にて製品タンク製作中、内部溶接を行っている最中にズボンに火がつき、本人が気付くのが遅れ、他の作業員が先に気づき火を消してもらったが、火の回りが早かったため火傷を負う。	69	11	11209	1~9
15	2017	1	16~17	社内作業場にて、スポット溶接機で製品にボルトを付ける作業を行っていた。ボルトを付けるには、製品にボルトを差し込み、その状態のままスポット溶接機の下部電極部分に差し込む。差し込んだ側の手を離し、起動ボタンを押すと、上部電極部が下がり電流が流れ溶接される。原因としては、起動スイッチの位置が高かったため下部電極部にボルトを差し込む際、作業者の腕が起動スイッチに触れてしまい、手を離す前に上部電極部が下がり、親指を負傷した。	44	7	11209	10~29
16	2017	1	14~15	溶接作業中にスパッタが袖付前掛けに引火し、すぐに気付いたが、大した事ではないと考え、溶接を続行した（溶接外観が悪くなってしまう為）。溶接作業を続行したことで、袖付前掛けから上着・中着・下着すべてに引火してしまい、左肩前部から左腕にかけて30センチ程火傷を負い、また火を消そうとした右手の指先も火傷した。	20	11	11509	50~99
				半自動機で溶接作業中、材料をセットしてから安全のため両				

17	2016	12	11~ 12	手でスイッチボタンを押すことになっていたが、材料をセットしない状態でボタンを押してしまい、下からのアームに気付かず、そのアームが上がるわずかの間に、左手中指を入れて挟んでしまった。	46	7	11209	30~ 49
18	2016	12	5~6	抵抗溶接機にてワークセット作業中に、フットスイッチのペダルを踏み込んでしまい、押し電極部が下降、右手人差し指先端部を下部治具にセットしてある部材との間に挟み込んでしまった。	29	7	11502	100 ~ 299
19	2016	11	14~ 15	TIG溶接機のスイッチに体の一部がさわりONになり、定盤の鉄がとけ出し、ズボンの中を流れ右足を負傷。	21	11	11209	10~ 29
20	2016	10	14~ 15	工場組立部でスポット溶接機メンテナンス時、スポット溶接機が作動しなかった為、電源を切らずに点検をした。点検中に誤って自身が作動ボタンを押した為、右手人差し指先端をはさまれ負傷した。	52	7	11209	30~ 49
21	2016	9	14~ 15	溶接直後、溶接棒の先が熱で赤い状態で、ふくらはぎに当たる。	46	11	11702	30~ 49
22	2016	9	16~ 17	工場内にて、段取り替え時に正規は可動スイッチを「切」にして取り替え作業をするが、スイッチを切らず、手と足のスイッチを切り替えて、手のスイッチにして、スパナで挟み、はずしていたところ、手のスイッチにスパナがふれたため、上部チップをつかんでいてチップ間の空間にあった左薬指をはさんでしまった。	42	7	170101	10~ 29
23	2016	9	16~ 17	工場内にて、段取替え時に正規は可動スイッチを「切」にして取り替え作業をするが、スイッチを切らず、手と足のスイッチを切り替えて、手のスイッチにして、スパナでチップを挟み、外していたところ、手のスイッチにスパナが触れた為、上部チップをつかんでいたチップ間の空間にあった左薬指を挟んでしまった。	42	7	11209	1~9

24	2016	9	9～ 10	工場内でスポット溶接機の入替えのため、中腰の状態 で鉄製架台のボルトを緩める作業中、スパナが外れたはずみで尻もちをついた状態になり、勢いあまってスパナを持っていた右手の甲部分が架台の立ち上がり部分に接触し負傷した。	48	2	10805	10～ 29
25	2016	7	13～ 14	工場内で10t車のグラップル本体のホースガード上部の溶接中に、溶接の火の粉が耳に入った。	38	11	11702	1～9
26	2016	7	13～ 14	フラッシュバット溶接機において、サブシートクッションの生産を行う折に、パイプ材を使用するが、そのパイプ材を溶接機にセットし起動スイッチを押し、パイプ材を溶接機に固定するためのクランプが稼動し、パイプが固定され、その後、上電極と下電極がありその上電極が下電極側に下がり、溶接を始めるが、上電極が下がらなかったため、その間に手を入れパイプ材を触っているうちに上電極が下がり、上下電極の間に左手示指及び環指を挟み、負傷する。	35	7	170101	100 ～ 299
27	2016	7	11～ 12	工場において棚板を製作中、鉄フランジと亜鉛引鉄板をスポット溶接機で、はさみ部分を溶接していたところ、誤って持ち手とアングルにはさまれ負傷した。	69	8	11109	1～9
28	2016	7	13～ 14	新築工事現場において倉庫内部仕上げ作業中、鋼製の柵を取り付けるためアーク溶接作業中、場所を移動するため溶接機を持ち移動中、溶接機のコードに右足を引っ掛け前方に転倒した。転倒した際、咄嗟に右手で体を支えた時、コンクリート床に体重が右手にかかり右手首を骨折した。	41	2	30202	10～ 29
29	2016	6	11～ 12	工場内に於いて自動車部品の溶接作業中、交換時期となったスポット溶接用電極を交換しようとして右手に持ったパイプレンチで電極を挟み奥へ回転させた処、電極がはずれた際、横に倒れないように左手を電極に添えていたため、左手示指をパイプレンチと電極の横のボルトの頭に挟まれ受傷した。	24	7	11502	50～ 99



39	2016	1	16～ 17	溶接作業を屋外で行っていた。風があったので充分注意していたが、溶接の火花が作業着に飛火し、作業着が燃え、右胸部を熱傷した。	68	11	11501	10～ 29
40	2015	12	14～ 15	倉庫内でのカベ開口端部の鉄筋組及び溶接作業に伴う片づけ作業において、作業ステージの上で溶接作業中、作業ステージの下で片づけ作業を行うその時、作業ステージ下に設置したエンジン溶接機を回し、排気ガスが発生し仮囲いの中に充満した。作業ステージの上で倒れた作業員を救助しようと作業ステージ上にあがった時、一時意識がなくなり一緒に倒れた。	61	12	30201	10～ 29
41	2015	11	10～ 11	河川護岸用鋼管矢板圧入作業において下杭圧入後、上杭を継ぎ足し、接合部分を溶接作業中、溶接済み箇所に衣服が触れたため衣服が燃え、被災した。	65	11	30199	30～ 49
42	2015	10	11～ 12	農業機械トラクターハンドル部分溶接作業中に右に傾いて作業していた為、溶接火花が、左耳に入り左鼓膜を負傷した。	61	11	170101	300 ～ 499
43	2015	9	15～ 16	自動溶接金網機にて線材トラブルが起こり調整中に機械が突然作動し、体全身をはさまれた。	51	7	11209	1～9
44	2015	9	16～ 17	工場内にて、溶接業務が終了し、溶接機を片付けようと移動の際、誤って左足にコードが引っ掛かり、後ろ向きに転んでしまい、床にあった鉄棒材に腰部左背部が当たり、背骨を骨折した。	58	2	11209	10～ 29
45	2015	8	15～ 16	ジョイントプレートの端部をガス切断中、ガスホースにガス切断した火の粉がかかりガスホースに引火し、右足大腿部の作業ズボンに燃え移り火傷した。	42	11	11209	10～ 29
46	2015	8	11～ 12	鉄板をアーク溶接にて仮付中、地面に敷いてある鉄板に尻をついた際、作業着が汗でぬれていたため感電した。	25	13	170101	100 ～ 299

47	2015	7	11～ 12	製品の出荷作業中、クレーンを使用して製品を移動していた時、H鋼上部のフランジに取付けてあった、アースコード（アーク溶接装置のアース）の先端のリブを外そうとして触れた際、感電した。	24	13	40301	30～ 49
48	2015	7	10～ 11	溶接用電極（Φ6mm×長さ90mm）の外周の付着物除去を、本来は卓上グラインダーで行うが他技能員が使用していた為、万能工具研削盤を使用して行うことにした。電極をチャックし、サンドペーパーを電極に巻き、手袋を着用した右手で強く握りながら作業していた際、手袋ごと右手薬指が巻き込まれ、指先を負傷した。	40	7	11502	1000 ～ 9999
49	2015	7	17～ 18	自動アーク溶接機のオペレート作業中、製品加工中に製品を押える治具と製品の間で手指を挟み、右手親指に火傷した。	56	11	11209	10～ 29
50	2015	6	16～ 17	仮組溶接作業時に部品中央を片手で支え仮付溶接し部品を支えたままトーチを移動させようとした際、熱を持ったワイヤーが左手人差し指内側の付け根に刺さった。	42	8	170101	10～ 29
51	2015	6	14～ 15	アルミ船のマンホールの溶接修理をする際に、マンホール内の溶接部分を洗浄剤を使用し、汚れ落とし作業をしていたが、換気不足のため、溶接のアークで引火してしまい、火傷を負った。	37	11	11501	10～ 29
52	2015	5	14～ 15	梁ウェブ溶接部の不良箇所補修のため、ガウジング作業を行っていた。割ぼう着型溶接用エプロン（綿生地）に火が燻っていたが、もう少しで作業完了であったため、作業を継続したところ、着衣に燃え移り上半身に火傷を負った。	51	11	30201	30～ 49
53	2015	4	13～ 14	溶接機2台の点検作業を行っていた。1台目の点検を終えて2台目の溶接機にガスホースを付け替えた後、1台目の溶接機から1次線を取り外す際、通常停電状態にて行う作業を誤って通電状態で行い、1次線の端子3箇所を取付けビスの取り外しを	36	11	80409	1～9



				行った時、端子部分が短絡してアーク熱により両手の指10本に火傷を負い被災した。				
54	2015	3	14～ 15	溶接作業中、溶接の火花がズボンに燃え移ったらしいのに気がつかず、溶接作業を続けていたところ、ズボンから煙が上り脱ごうとしたが安全グツを履いているため思うように脱げず、左・右足フクラハギにヤケドをした。	43	11	11209	30～ 49
55	2015	3	15～ 16	ピラーのナットを手押しスイッチでの作業中、電極部分にエラー表示が出たので、作業を中断し上司に連絡。待っている間に電極交換時等は通常スイッチをOFFにしてやっていたが、この時は対応に時間が掛かりそうなので自分で何かしようと思い、スイッチをONにしたまま、エアブローして確認中、誤って左肘が手押しスイッチに接触、右手薬指を裂傷してしまった。	21	8	11502	100 ～ 299
56	2015	2	15～ 16	請負先現場で、住宅部材用鉄骨の溶接作業中、溶接中に発生した火の粉が頭上を越えて、作業服の背中周辺に飛び散り、その為油分の付着した作業服に引火して、その火を右手で消そうと触れた為右手甲部に火傷を負った。	54	16	11209	30～ 49
57	2015	1	10～ 11	打合わせの為、作業員を営業所敷地内で探していた。工場外から工場内休憩場所へ向う為、工場西側の安全通路を走って通り抜けようとしたところ、通路を跨いであった半自動溶接機のアース線に左足が引っ掛かり、前方に敷いてあった段ボール上に転倒。その際、右膝を強打し負傷した。	38	2	80209	10～ 29
58	2014	11	14～ 15	工場内にて溶接機を使いガウジング作業中、火花が作業服の腰部あたりに引火した。	50	11	11301	10～ 29
59	2014	10	15～ 16	自動車部品のスポット溶接作業中、スポット溶接機下部電極に取り付けてあるスポット治具に付着したスパッタを右示指で拭っていた時に、誤ってフットスイッチを踏んでしまい右示指を挟まれた。	35	7	11209	0

60	2014	10	10～ 11	大型ダンプのマフラーを溶接中にボルトが落ちて腹部をやけどした。	69	11	50101	1～9
61	2014	9	16～ 17	自社ヤードにて仮設プレハブの建築にて溶接機を用いて骨組み作業中、作業手袋を着用しないまま作業して感電した。	36	13	30201	1～9
62	2014	9	14～ 15	倉庫内にて、電気機器の点検整備の作業中（A、Bの2名）、小型交流アーク溶接機（18KVA）の点検が終わり、Aより電源切り離しの指示があり、Bが溶接機の端子部をペンチではずした時に感電した。（メインスイッチを切り忘れていた。）	42	13	30301	10～ 29
63	2014	7	9～ 10	事業所敷地内において、4 t ユニック車の下部にて真横になり、溶接仮付の作業を行っていた際、錆があり溶接の火花が弾けて、右耳内に入り、火傷した。	57	11	11209	1～9
64	2014	6	9～ 10	被災者は屋根面タイトフレーム溶接作業を同僚他4名と行っていた。被災者はトップライト際、屋根小梁上でフランジにまたがりタイトフレームの溶接を行っていた所、次の溶接を行った際、直前の溶接部に作業ズボンの裾がふれ作業ズボンに引火し左脛を熱傷した。	23	11	30201	1～9
65	2014	5	18～ 19	曲げ加工した鋼材（厚さ9mm）のガウジング作業を行っていた際、焼けた小さな鉄の塊がはね、ズボンに穴を開け入り込んだが、裾を安全靴の中に入れていたため、すぐに取り出せず、右足を火傷した。	33	11	11009	10～ 29
66	2014	5	13～ 14	ゴルフ場にてグリーン手前に向かって歩いている時、隣のホールから打たれたボールが頭に当たった。	48	4	140301	100 ～ 299
67	2014	4	16～ 17	工場内に於いて、溶接作業中に溶接の火花が衣服に飛び、たまたまシンナーが付着していて燃えてしまった。それで、右足部位火傷した。	52	11	11209	10～ 29
				水槽の中で天井部分を溶接中に手が滑ってトーチを落としそ				

68	2014	4	15～ 16	うになり、両手でつかみ右手手のひら側の中指第二関節に先端が刺さった。先端が熱かったため火傷した状態になったが、そのまま作業を続けた。	46	8	11209	50～ 99
69	2014	3	13～ 14	昼休み後2階にて長尺ビニールシート（5.5m×1.8m）を接着作業中、現場が火災となり吹き込んできた熱風を吸い込み、また顔を右手で覆ったため火傷した。	35	16	30209	1～9
70	2014	2	11～ 12	外板取り合い溶接作業（上向き姿勢）に従事していたところ、右脇下部より火が出ているのを目視したが、足場上での作業のため安全帯を着用した状態で慌てて作業服上着を脱ぎ捨てたが、すでに右脇部を中心に背中にかけて受傷していた。	42	11	11501	10～ 29
71	2014	2	10～ 11	作業台の上で接合部の溶接作業中に、鉄筋の隙間から溶接ワイヤーがすり抜けて、皮手袋を貫通して左手人差し指に刺さった。	32	8	11209	30～ 49
72	2014	2	16～ 17	コンテナ設置作業中、上から溶接機材をロープで下ろす中で、ふと目を離れたタイミングに機材が先に降りてきて、左肩にあたり受傷となる。	52	4	170101	100 ～ 299
73	2014	2	8～9	スポット溶接の工程で、材料に付着したゴミを取り除こうとした際、足元スイッチに足を乗せたまま体重を前にかけてため、スイッチが入り右手を負傷した。	34	7	170101	10～ 29
74	2014	2	14～ 15	現場で焼抜き栓溶接作業中、溶接火花が首元から旨に入り、ウィンドウヤッケに引火。両手で消火しようとしたが、下着・作業着に燃え広がり熱傷した。	41	11	30201	1～9
			19～	銅板治具の上に設置した切妻構体をスポット溶接するにあたり、溶接プログラムを確認するため作業者が門型自動スポット溶接装置をペンダントを持ちながら動かしていた。門型自動スポット溶接装置が指定された位置へ移動すると共に、作業業者も移動した際、作業業者はペンダントのケーブルが切妻構				

75	2014	1	20	体に引っ掛かる恐れがあることに気をとられ、門型自動スポット溶接装置に追いつかれてしまい、スポット溶接の電極を切創するチップドレスと銅板治具の上に敷いてある銅板の角との間に右足付根が挟まれ、咄嗟に足を抜いたため銅板の角で受傷した。	38	7	11503	1～9
76	2014	1	9～ 10	スポット溶接機でスポット溶接の作業中、トラスを台上に置いてセットするとき、上からトラス溶接機が下りてきて右手中指を挟んで負傷した。	34	7	170101	30～ 49
77	2014	1	15～ 16	工場の訓練所で、技量資格取得訓練で狭隙部での横向き姿勢のTIG溶接を行っている時に、訓練材（テストピース）と作業服が接触し、作業服上着に日がつき、右胸部に手のひら3つほどの大きさの火傷を負った。熱傷の程度は3度、意識ははっきりしていた。	22	11	11209	300 ～ 499
78	2013	12	16～ 17	反転機に製品（1075X1075X325）をセットして溶接中、反転機を回した際、製品を止めてあった金具が外れ、作業者の足に当り負傷した。	58	11	11209	10～ 29
79	2013	11	11～ 12	高圧遮断器取替後の回路検査を開始後、約30分程度経過後にスパークが発生し、後頭部と耳に熱傷を負った。	63	11	30302	1～9
80	2013	11	13～ 14	チョック側面を炭酸ガス半自動溶接機を使用しチョックの補修面を上向きに設置した状態で肉盛溶接作業を行っていたところ、溶接のスパッターが胸ポケットに入り込み、徐々に燃え広がり、胸部を火傷した。	39	11	11301	10～ 29
81	2013	10	15～ 16	アーク溶接の実技研修中、半自動溶接のワイヤーが無くなり、交換作業を行った際、溶接面と保護メガネを外していた為、他の溶接作業を行っていたアークの光を見て、目を負傷した。	34	12	170101	100 ～ 299
			16～	倉庫の道具片付中、トラックよりエンジンウェルダールを降ろ				10～

82	2013	8	17	した際、ウェルダークの कोरोが外れ、トラックの荷台とウェルダークにはさまれ、手を負傷した。	46	7	11209	29
83	2013	8	23～ 24	溶接機で手中指を挟んだ。	24	7	170101	100～ 299
84	2013	8	14～ 15	溶接作業中、飛び散っていた溶接火花の一部が作業服の背中に落ち、火傷を負った。	27	16	11209	10～ 29
85	2013	7	9～ 10	円型キルンの最深部に亀裂箇所があり、修繕のため被災者はうつぶせ寝の状態の中に入って溶接作業を行っていた。下がりながら出ようとしていた際、汗で濡れた作業服が溶接機の配線コードに触れ、感電した（配線コードは消耗、劣化していたため、取替える予定だったがそのまま使用させていた）。	38	13	11709	30～ 49
86	2013	7	0～1	異常品補修場所にて、ガウジング及びCO2溶接作業を行っていた際、外面側と内面側の両側の2m程の補修溶接を行ったところ、長時間のアーク光により目を焼いた。	41	90	11001	10～ 29
87	2013	7	14～ 15	吊材溶接機を屈みながら調整していた際、同僚が電源を入れた為、動き出し、引張り装置に手を挟まれた。	33	7	11209	10～ 29
88	2013	7	14～ 15	溶接機の上部電極を交換する際、手を下部電極に触れたまま誤ってボタンを押した為、手の薬指第一関節部分を負傷した。	20	7	11509	30～ 49
89	2013	7	11～ 12	ストールを溶接作業中、火花が目に入った。	36	11	70101	10～ 29
90	2013	6	15～ 16	溶接機を移動中、設置場所の頭上が低いため、頭を下げた姿勢で押した際、押す場所が少し傾斜していたため、片方に力が掛かり過ぎ溶接機が回転。金物突起物と（手を置いていた）溶接機機材に挟まれ、指を負傷した。	59	7	11501	10～ 29

91	2013	5	9～ 10	埋合機の修理作業を行っている際、厚さ30mmの鉄板を溶接していたところ、誤って酸素側のホースを焼き、手小指付近に火傷を負った。	39	11	11702	1～9
92	2013	4	14～ 15	マフラーの溶接作業中、150φパイプを上向きに溶接しようとした際、誤って火が肩辺に落ち、服に燃え移り、火傷を負った。	59	11	11209	10～ 29
93	2013	4	13～ 14	スポット溶接（製品部分を手で機械にセットし、足のペダルで作動させる）作業中、人さし指を部品に添えていた際、誤って足でペダルを作動させ、はさんだ。	69	7	11209	1～9
94	2013	4	17～ 18	ステンレス材をティグ溶接を使用して板付溶接を行っていたところ、溶接時の発生する光により、顔の保護が不十分であったため、顔を火傷した。	30	11	11209	10～ 29
95	2013	3	15～ 16	溶接作業中、ワイヤーの巻きが勢い良く戻り、トーチ側のワイヤー端が顔に当たり、眼球を損傷した。	23	6	11209	10～ 29
96	2013	2	19～ 20	溶接作業中、溶接機械にセットしてあるワイヤーが落下し、被災者の背中から首にかけ当たった。	25	4	170101	10～ 29
97	2013	1	15～ 16	人間が入るのがやっとの場所にて半自動溶接作業中、溶接の火の粉が衣服に落ち発火。火傷を負った。	26	11	11501	1～9
98	2012	11	8～9	溶接作業の為、溶接機に品物をセットしていた際、誤って手親指を品物と機械の間に挟んだ。	26	7	11209	1～9
99	2012	11	16～ 17	事務所前倉庫にて、トラックよりウェルダーを降ろしていた際、胸がウェルダーにぶつかり、負傷した。	41	3	11209	10～ 29
100	2012	11	10～ 11	シャシのサイドバンパー溶接作業中、雨の中、溶接機械で作業していたところ、アースから電気が流れ、肩から、指先に掛け、感電した。	63	13	40301	10～ 29

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。